キャンパス万華鏡 ―写真が語る大学の横顔―

伝統的祭りと大学

日本各地には伝統的なお祭りが存在する。高齢化などにより祭りの担い手が危ぶまれるなか、地元の大学生が地域の文化継承に貢献している。全国に所在する日本私立大学協会加盟大学に呼びかけ寄せられた、「祭りを盛り上げる学生の姿」を紹介する。

青森中央学院大学

青森中央学院大学のある横内地域では、町内会で地域ねぶたの運行をしていたが、様々な事情から町内会単独での運行ができない状況が続いた。そこで、横内地域の10の町会と同大学他で活動している、横内地区まちづくり協議会では、2022年度から、横内地区ねぶた実行委員会を組織し地域ねぶたの運行を実施することを企画。学生・教職員が、ねぶた作り、運行、囃子、ハネト(踊り手)、広報などに参加。2023年は、子どもからお年寄りまで地域の方々が参加し交流。今後も地域の祭として定着を目指す。

金沢工業大学

金沢工業大学学友会と学生プロジェクト「SDGs Global Youth Innovators」は、8月6日に行われた「道の駅一向一揆の里」（石川県白山市）で行われた「第36回 鳥越一向一揆まつり」に、企画段階から参画、協力した。鳥越一向一揆まつりは、一向一揆勢の最後の砦「鳥越城」で、織田信長軍と激しい攻防を繰り広げた先人の遺徳を偲ぶお祭り。地域住民と協力して1万個のキャンドルによる鳥越万灯華を灯し、冥福を祈った。

北星学園大学

北星学園大学・北星学園大学短期大学部（北海道）の演舞同好会「北星学園大学～廻～」は、北海道の民謡「ソーラン節」をアレンジした楽曲に合わせ、鳴子を手に演舞する。札幌市を代表する一大イベント「2023年第32回YOSAKOIソーラン祭り」では、札幌市大通公園を中心に市内各所で演舞を披露し、ファイナルステージへ進出、優秀賞を受賞。ソーラン節と掛け声を響かせ、迫力ある演舞で地域や観覧者へ活力を与えた。

ノースアジア大学

ノースアジア大学法学部国際学科観光コースのカリキュラムの中には「まつり実践実習」という授業がある。学生たちは毎年8月に開催される「秋田竿燈まつり」に出場し、妙技を披露するために技を磨く。実習を通じて伝統文化を守る重要性を学び、国内外に発信する力を身に付けていくことができる。コロナ禍で中止と縮小開催が続いていたが今年は4年ぶりに通常開催され、迫力のある演技で会場を賑わせた。（写真はオープンキャンパスでの演技披露の様子）

鹿児島純心大学

国選択無形民俗文化財、鹿児島県指定無形民俗文化財である「川内大綱引」が4年ぶりに開催され、大学からの呼びかけに応じた鹿児島純心大学の男子学生有志が参加した。「引隊（ひきたい）」として参加した学生たちは地域住民の指導の下、太鼓や掛け声に合わせて懸命に綱を引いた。結果は綱が切れて引き分け。地元最大の伝統行事に男女共学化1期生が参加し、地域住民と心を一つにして交流する機会となった。大学としても、学生にとっても貴重な経験となった。

京都文教大学

京都文教大学地域連携学生プロジェクト「宇治☆茶レンジャー」は、急須で淹れるお茶の美味しさと楽しさを発信する活動を行う学生団体だ。同団体は、１０月に開催される宇治茶の茶祖（栄西禅師、明恵上人、千利休）を祀る伝統行事「宇治茶まつり」に参加。豊臣秀吉が宇治川の名水で茶会を開いたという故事から、宇治橋三の間から水を汲み上げ、献茶祭の会場、興聖寺まで運ぶ「名水行列」に加わり、改めて、宇治茶の奥深さと歴史に触れることができた。

東京家政大学

関東三大七夕祭りの一つ、「入間川七夕まつり」が4年ぶりに全面開催となり、東京家政大学子ども支援学科の保坂遊教授ゼミの3、4年生が矢来飾りを出展した。授業や教育実習の合間を縫って作成した行燈飾りに、併設保育園の子どもたちの作品も飾りつけ、青空のもと涼しげな吹き流しが印象的となった。「牽牛賞」「おりぴい賞」も頂き、地域活性化への貢献の意義を実体験として学ぶことができた。

東北芸術工科大学

東北芸術工科大学の企画構想学科2年生が企画した「ハナサクヤマガタ」は、「山形花笠まつり」がコロナ禍で中止を余儀なくされたことをきっかけに企画された。祭りの象徴でもある花笠をオリジナルで作成し、山形市中心街に展示することで山形の夏に賑わいをもたらそうと、各所に協力を依頼。園児や小学生と一緒に花笠を制作し、まつり不在の山形の夏を盛り上げた。2022年の花笠まつり復活後にも継続して企画を実施し、まつりを一緒に盛り上げてきた。

帝京大学

毎年7月に福岡県大牟田市の中心街にて開催される「おおむた大蛇山まつり」に、地域医療に貢献する人材育成を掲げる帝京大学福岡医療技術学部の学生と教職員が参加。「おおむた大蛇山まつり」は、無病息災を願って江戸時代から始まったとされている。「1万人の総踊り」では、学生・教職員が浴衣や法被を身に纏い、「炭坑節」や「大蛇山ばやし」の曲に合わせ、市民とともにお祭りを盛り上げている。

五穀豊穣と人々の健康祈る「御旅神事」

神戸親和大学

五穀豊穣や人々の健康を祈る「御旅神事」(神戸市無形民俗文化財)が、神戸親和大学の地元にある「淡河八幡神社」で行われた。同大学のユネスコクラブの学生も、氏子を始めとした地域住民と共に神事に参加。特に境内の外への神輿担ぎや田園の中にある長い道のりの練り歩きは、地域の大人から子どもまでの絆を感じる貴重な体験となった。ユネスコクラブはこのような仲間の輪と視野を広げる伝統行事にこれからも積極的に参加していく。

西日本工業大学

コロナ禍を経て4年ぶりに完全復活した福岡県北九州市の夏の風物詩「わっしょい百万夏まつり」。地方都市の伝統的な祭りが資金難で運営が困窮する中、協賛費用を祭りの運営資金に充てる仕組みを実現し、プロジェクションマッピング技術を用いたスポンサーの広告投影で協賛金を確保する試みを西日本工業大学の研究室グループが実施。広告とともに祭りの伝統である市庁舎の「百万」の窓文字も映し出した。また、7年ぶりに選出された看板息子には同大学学生が選ばれ、北九州市を全国にPRする活動を行っている。

明海大学

明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部の学生が、「明海の丘夏まつり」に参加。学生主体の都市型養蜂プロジェクト「うらやすハニープロジェクト」のメンバーが、蜂蜜の販売を行った。ミツバチが入った巣枠を展示し、浦安地域の住民、特に子供たちにはミツバチの生態について教えた。また、浦安市に多くの花を咲かせ、ミツバチが多くの蜜を集められる環境をつくりたいという思いから、花の種が入ったカプセルトイを設置して、販売も行った。１００年続く夏祭りを目指す地域の祭りに参加している。

祇園祭　佛教大学

佛教大学には、日本を代表する都市祭礼である祇園祭の歴史や民俗芸能について体験しながら学ぶことができる「地域活動」という科目がある。綾傘鉾保存会の活動にスタッフとして参加することで、表から見ていてはわからない巨大な都市祭礼を支える人々の想いや苦労について深く知ることが目的。歴史や芸能、その変遷等を教室で学び、その知識を活かしながら、毎年、受講生たちは祇園祭を支えるメンバーの一員として活躍している。

華やかな時代絵巻 ～あかる姫まつり～

常磐会学園大学

常磐会学園大学の学生は、神話に登場する女神を祭る赤留比売命（あかるひめのみこと）神社の神事に伴う「あかる姫まつり」に参加し、今年も大いに盛り上げた。このお祭りは地域社会を団結させ、地元の文化を称える機会として、多くの人々に愛されている。同大学のボランティアは、パレードの主役であるあかる姫や地元ゆかりの武将である坂上廣野磨など時代衣装に身を包み、パレードに参加。彼らの華やかな衣装と元気溢れる姿は、商店街を訪れた観客の方々から大変好評であった。

高岡法科大学

「けんか山」で知られる高岡市伏木の例大祭、けんかやま祭りが5月に開催された。昼の豪華絢爛な花飾りをつけた花山車の部に今年も高岡法科大学の八坂ゼミの学生6人が参加、奉引き（町を花山車が練り歩く）を行った。地域の人たちと同大学の学生がひとつになり、祭りは大いに盛り上がった。花山車は、夜になるとちょうちん山となり、かっちゃ（山車と山車をぶつけあう）の開始。祭りは最高潮に達した。